

# デルフィニウムの葉かき・芽の整理の効果について

～葉かき・芽の整理で品質向上を目指そう！～

大羽智弘（東三河農林水産事務所農業改良普及課）

【平成25年2月15日】

## 【要約】

農業改良普及課では、葉かき・芽の整理に取り組む農家の協力を得て品質の向上効果を確認した。シネンシス系デルフィニウム「スーパープラチナブルー」「スーパーグランプルー」栽培で、2番花以降に葉かき・芽の整理を行うと、樹が硬く締まるとともに、切り花の側枝が多く発生し、収益が増加した。

## 1 はじめに

豊橋市は全国一のシネンシス系デルフィニウム産地である。最近では生育が旺盛な「スーパープラチナブルー」「スーパーグランプルー」などF<sub>1</sub>品種が増加している。栽培は、8月から11月に定植し、10月上旬から翌年6月下旬まで収穫する体系である。定植後、約2か月で1番花を収穫する。その後、株もとから発生する芽を伸ばし、順次、約2か月間隔で2番花、3番花を収穫する。1株からの収穫本数は、1番花は1本、2番花以降は2本以上となり、3番花以降は過繁茂となり品質が低下している。

そこで、上記2品種を供試して、葉かき・芽の整理による品質向上及び増収効果を確認するため展示ほを設置し、調査した。

## 2 試験区の構成と調査方法

ほ場内に連続する40株を選定し、展示区と慣行区を設置した。展示区は2番花以降に葉かき・芽の整理を実施した。葉かきは2回に分けて行った。1回目は草丈約15cmの時に古い葉を中心に半分程取り除き、2回目は草丈30～40cm位の時（写真1）に地際から約15cmまでの葉を全てかき取った。芽の整理は、2番花は2本、3番花以降には4本に仕立てるよう芽を整理した（図1）。慣行区では葉かき・芽の整理は行なわなかった。

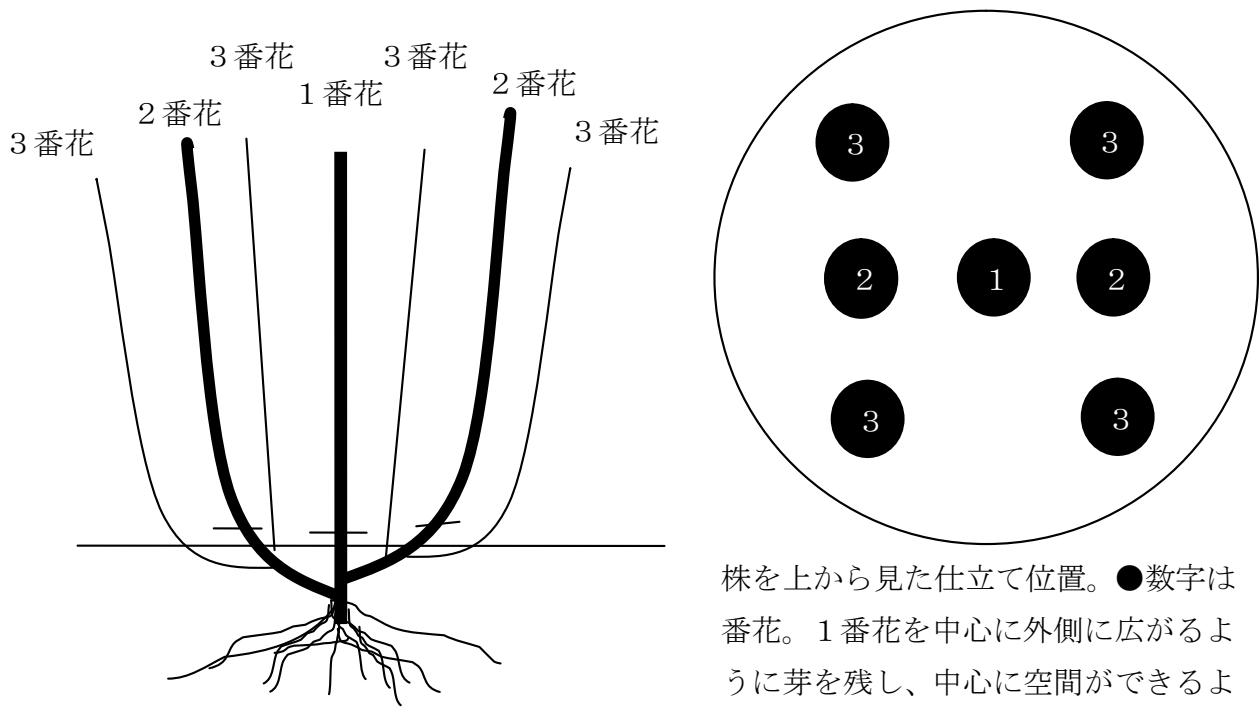
調査は、2番花以降の収穫時に行い、スプレーとシングルの割合（※）を調査した。



写真1

2回目の葉かきと芽の整理前（左）と後（右）

※・・・JA豊橋デルフィニウム部会では、側枝が3本以上のものをスプレー、2本以下の出荷物をシングルとしており、スプレーのほうが販売単価が高い。



株を上から見た仕立て位置。●数字は番花。1番花を中心に外側に広がるように芽を残し、中心に空間ができるようにするとスプレー比率が高くなる。

図1 デルフィニウムの収穫イメージ

### 3 結果

展示区の収量調査結果では、「スーパーグラムブルー」のスプレー率が45%から71%に向上し、10a当たり414千円収益が増加した。また、「スーパープラチナブルー」では、スプレー率が70%から79%に向上し、10a当たり177千円の収益が増加した。

※販売単価は平成23年度の平均販売単価（スプレー115円、シングル35円）をもととした。出荷経費は考慮しなかった。

表 展示ほの収量調査結果

●品種「スーパーグラムブルー」、調査期間2月17日～6月23日

	葉かき・芽の整理区			慣行区		
	スプレー	シングル	合計	スプレー	シングル	合計
収量(本/20株)	87	35	122	67	81	148
スプレー率	71%			45%		
増収効果	414,000円/10a					

●品種「スーパープラチナブルー」、調査期間3月12日～6月9日

	葉かき・芽の整理区			慣行区		
	スプレー	シングル	合計	スプレー	シングル	合計
収量(本/20株)	58	15	73	53	23	76
スプレー率	79%			70%		
増収効果	177,000円/10a					

#### 4 考察

今回の調査で、葉かき・芽の整理により茎が硬く締まり、側枝数が増えスプレー化するなど品質が向上し、収益が増えることを確認した。また、葉かき・芽の整理にかかる労働時間・コストは、芽の整理をしない慣行区でも結局、収穫時には同等の手間がかかるため、新たな負担とはならなかった。展示農家も「これまでは株元が混みすぎ、特に春以降は収穫しにくかったが、葉かき・芽の整理をすると収穫作業し易い。」との意見であった。この結果を部会に周知して、他の生産者が葉かき・芽の整理に取り組んだ結果、市場からも高い評価を得た。

#### 5 実施上の注意点

芽が短いうちに一度に葉かきをすると、その後の芽の伸びが悪くなり、かえって収量の減少を招く恐れがあるので数回に分けて実施する。また、芽の整理は、芽と芽の間隔を広げるように行くと、スプレー化し品質向上が期待できる。